

◆ 「日本全国遊歩道整備構想」 1 枚提案書

◆◆◆ 1.定義 ◆◆◆

「日本全国遊歩道整備構想」とは、日本中に遊歩道を張り巡らせ、国民のハイキングを活発化するという施策です。森林、里地里山、郊外に遊歩道をたくさんつくり、これをできるだけ連結します。そして、その設備や施設を充実させ、また、舗装した遊歩道をたくさん増やします。

◆◆◆ 2.提案の背景 ◆◆◆

- 森林や里山に遊歩道が少ない。
- 既存の遊歩道は、バラバラで連結されておらず、また、出入口が少ない。
- 既存の遊歩道は危険な箇所が多々見られる。
- 舗装された遊歩道が少ない。
- 足腰の弱った高齢者や車いす使用者、視覚障害者が楽しめるハイキングコースがほとんどない。(足腰の弱った高齢者や車いす使用者、視覚障害者には難易度が高すぎるコースばかりである。)
- 日本は超高齢社会であり、医療費の抑制のため、高齢層の健康増進が社会的課題である。

◆◆◆ 3.目的 ◆◆◆

国民がハイキングを行いやすくする。また、足腰の弱った高齢者や車いす使用者、視覚障害者もハイキングを楽しめるようにする。ひいては、国民の健康を増進する。

*** 署名のお願い ***

このサイトでは署名活動を行っております。「署名する」のページに、署名フォームがございますので、こちらをご利用ください。どうかよろしく願いいたします。

◆◆◆ 4.論理 ◆◆◆

日本中の森の中や里山、そこにつながる里地や郊外に遊歩道を、とくに舗装した遊歩道をたくさんつくる。そして、これらをできるだけ連結する。

↓↓↓

遊歩道が日本中に張り巡らされ、その出入口がたくさんできる。また、歩行難易度が低い遊歩道が日本中にたくさんできる。

↓↓↓

距離が遠くて消極的だった人々、身体の不自由で困難だった人々が、手軽にハイキングを楽しめるようになる。

◆◆◆ 5.構想 ◆◆◆

- 森林、里地里山、そして、そこにつながる郊外に遊歩道をたくさんつくる。
- 遊歩道は歩幅をできるだけ 2.5m 以上にする。
- 既存の遊歩道は拡幅や舗装、再舗装などして活用する。
- 舗装した遊歩道をたくさんつくる。
- 遊歩道はできるだけ連結する。
- 遊歩道の設備や施設を充実させる。
- 遊歩道を観光資源に接続する。
- 里地においては、地元民による店舗(直売所や茶屋、土産物屋など)を置く。